大阪府立 **東大阪** 支援学校	タイトル（テーマ） 吊り遊具を用いたリラクゼーション	東大阪　No.　17　号 令和 3　年　1　月　31　日

取組の内容・授業の様子(中学部)

【目的】
・揺れや回転を楽しむ。
・不安定な感覚に身をゆだねたり、バランスをとろうとしたりする。
・身体の筋力や関節からの情報を感じる。
【方法】
・仰臥位や伏臥位、抱きつくようにして乗ったりして前後左右の振れや回転を感じる。
・伏臥位で地につけた足を突っ張るなど、自分の身体の動きによって揺れが生じるという感覚を体験する。
・吊り遊具の上に電飾を提示し、視覚的にも動きを感じられるようにする。

1

2

3

【取り組み内容と経過】
・フレキサースイングでは、低緊張の生徒も股ベルトや胸ベルトを利用して乗ることができた。少しヘッドコントロールしようとする様子も見られた。
・気管切開をしていたり変形があったりして、乗り物に制限がある生徒もプラットホームスウィング上にフロアマットを敷きその上に乗ることで、安全に活動することができた。

成果と今後の課題

・はじめは不安定な揺れに落ち着かない様子を見せる生徒もいたが、回数を重ねて体験に慣れると、揺れに身を任せてリラックスできるようになった。
・繰り返すことで見通しを持つことができ、乗ると期待感から笑顔を見せる生徒もいた。
・遊具の台数が限られているので、人数の多いグループで取り組もうとすると、一人ひとりの活動が短時間になり、動きに慣れる前に交代しなければならなかった。
・普段車椅子に座ったままの状態が多く、重心が偏りがちな生徒が多いので、できるだけ吊り遊具やその他の粗大運動を日常的に取り入れ、変形拘縮の進行を予防したり、身体意識を高められるようにしたりしたい。